

社会を明るくする運動

小学生の部最優秀作文

きずなの種

菊池北小学校6年 城 綜彌さん



「じゃあ、私にもちょうだい。」

これは、軽トラ朝市で自分たちの作った赤米を販売したときに、あるおばあちゃんから言われた言葉です。そのおばあちゃんの笑顔が、今でも忘れられませんが、この朝市で赤米を販売し、多くの人々の手に渡るまでに、たくさんの方々の手助けに助けていただきました。

私の通う菊池北小学校では、毎年五年生が半年以上をかけて赤米づくりを行います。私たちも、昨年たくさんの方々の協力をいただいて、赤米づくりを行いました。

まず、種まきの時は、田んぼを貸してくださいだった友達のお父さんや地域の方々、JAの方々には指導を受けました。初めての作業のため、難しいこともありましたが、土の入った袋を持ってくださったり、土の量を調節してくださったりして、たくさんの手助けをしていただきました。また、全体の作業効率などを考え、事前にたくさんの方々の準備をしていただきました。初めての地域の方々との作業で緊張していましたが、安心して作業を進めることができました。

次に、田植えまで、学校で苗を育てていました。私たちは、一日交代で、苗の様子を見に行っていました。地域の方や友達のお父さんは、毎日苗の様子を見たり、雑草を抜いたりしてくださって

ました。平日も、休日も毎日様子を見に来られていたそうです。私は、すごいと思いました。

田植えでは、みんなのお父さん、お母さん、田んぼの近所の方など、たくさんの方にも協力いただきました。学校から苗を運んだり、苗を下ろしたり、田植えの方法を一人一人に教えてくださったりしました。稲刈りでも、同じように、たくさんの方々に協力いただきながら、脱穀をしたり、袋詰めをしたりしました。そして、いよいよ私たちと地域の方々と作った赤米を販売する軽トラ朝市の日が来たのです。

初めは、私たちのお父さん、お母さんが赤米を買ってくれました。しかし、その後はなかなか売れず少し不安になりました。すると、一人のおばあちゃんが近くにきました。そして、

「これは、あなたたちが作ったとね。」

と、尋ねられました。そこで、私たちは、

「はい、そうですよ。」

と、口々に答えました。すると、

「みんな、えらいねえ。」

と、言われました。そして、私たちを見て、

「じゃあ、私にもちょうだい。」

と笑顔でおばあちゃんと言われたのです。私はそのとき、自分たちと地域の方々で協力して作ったお米をほめてもらえたような気がして、とてもうれしい気持ち

になりました。米づくりでは、普段当たり前のように食べているお米を作ることの大変さ、作業一つ一つの大事さを学びました。また、種まきから販売まで、たくさんの方々のお手伝いをいただきながら作業を進めたなかで、私たちと地域の方々とのつながりが深くなってきたように思います。

今でも、お世話になった地域の方々との交流は続いています。米づくりでお世話になった地域の方には、地域の祭りと一緒に踊りを練習したり、会うたびにあいさつや会話をしたりしています。朝市で私たちの赤米を買ってくださいとおばあちゃんや地域の方とは、朝市であいさつをしたり、みなさんがされているお店に買い物に行ったりしています。米づくりでつながった関わりが、今でも続いていることがとてもうれしいです。

私は、今回の米づくりを通して、地域の方々とお話したり、たくさんお話ししたりすることで、お互いのことをよく知り、困った時には助け合うことができると思いました。米づくりから生まれたつながりを今後も大切にして、次につないでいきたいと思っています。そのためにも、これからも地域のボランティア活動や、行事に積極的に参加したり、自分から進んであいさつをしたりして、地域とのつながりを深めていきたいです。